

OR/MSとシステム・マネジメント研究部会報告

01005670 電気通信大学 *太田敏澄 OHTA Toshizumi (主査)

01306250 神奈川工科大学 田中宏和 TANAKA Hirokazu(幹事)

はじめに

本研究部会では、OR/MSを、高度情報時代において活用する方策を探求するとともに、企業経営やシステムの企画・管理・運営に生かすため、経営理念をはじめ、情報技術の活用実態についての知見を収集し、概念的、理論的、方策的検討を行っている。なお、研究部会案内や報告については、その都度、本学会のメーリングリストを通じて行った。

研究部会会合記録(1996、1997年度)

1996年10月26日 前川製作所における独法経営

岩崎嘉夫(前川製作所取締役)

11月16日 ネミックラムダにおける球体経営と球体情報システム

斑目 力曠(ネミックラムダ株式会社代表取締役会長)

12月21日 サイバーコマースの現状と課題

小見志郎(株式会社野村総合研究所新社会システム事業本部部長)

1997年2月1日 産業、企業のグローバル化の進展と課題

土屋勉男(三菱総合研究所経営・市場戦略研究センター長)

3月1日 情報ネットワーク活用による日本的ワークスタイルの変革

林田収二(古河電気工業株式会社情報システム部システム企画部長)

5月10日 日本のEDIの現状と将来

玉生弘昌(株式会社プラネット代表取締役社長)

7月5日 オフィスの変革—文書のネットワーク化と共有のへ舵取り—

松本明弘(ソニー株式会社B&I営業本部ドキュメンテーションSI担当、部長)

8月1日 Parallelism in Global, Collaborative Production

SHIMON Y. NOF(Professor, School of I E, Purdue University)

9月6日 情報システムフロンティア—先進企業における情報システムの最新動向—

杉浦和史(コンサルタント)

12月6日 三菱電機の社内情報システムの革新とビジネスへの適用

小泉寿男(三菱電機株式会社生産システム本部技師長)

1998年1月10日 アメリカ急成長企業の組織運営と企業文化—ピープルソフトの場合—

徳末哲一(ピープルソフトジャパン株式会社代表取締役社長)

3月7日 業務ウェアによるホワイトカラーの生産性向上について(予定)

古川弘(新日鉄情報通信システム株式会社関西支社第一事業部長)

研究内容・研究成果

広くOR/MSの活用方策を探索するため、情報技術の高度利用に関連する理念や企業のグローバルな環境について講師を迎え、研究会を行った。

①前川製作所における「個と全体の調和を図る独法経営」は、最近のポジティブフィー

ドバックに関する議論や知的分散システムにおける創発性についての考察を深める上で、有意義であった。

②ネミックラムダ株式会社における仏教的宇宙観に根差した経営哲学は、経営システムにおける理念の重要性についての考察を深める上で、有意義であった。

③勃興渦中のサイバーコマースのビジネスには、多様な業界が参画しており、そこでは「共創」がなされているという視点を得ることができ、有意義であった。

④日本の産業や企業とりまく環境の動向は、経営の再構築や日本的経営についての教育問題などを検討する必要性を示しており、産業の空洞化を避けるアジアとの共生を探る経営の在り方についての考察を深める上で、有意義であった。

⑤日本企業のもつ現場感覚と組織的行動力という強みをより有効に作用させる方策を、情報ネットワークシステムの活用という観点から考察することができ、有意義であった。

⑥VAN事業を展開について、日用品の業界統一EDIにもとづく知見を得ることができ、業界のネットワーキングの実態についての理解を深める上で、有意義であった。

⑦文書の共有化とそれに纏わる業務の改革では、オフィスにおける新たなネットワーク型電子的文書空間を構築する必要があるとの視座を得ることができ、有意義であった。

⑧組織の分散化傾向に対して、業績の改善や競争力の向上を実現するための効果的な情報統合の方法について理解を深めることができ、有意義であった。

⑨「情報化を成功させる要諦は、情報技術ではなく、人の意識変革にある」との論点は、システムマネジメントにとって重要な視点であり、有意義であった。

⑩パッケージソフトの導入においては、高級なツールを使いこなすためのノウハウの蓄積が重要性であることを理解することができ、有意義であった。

⑪パッケージソフトのアーキテクチャや顧客のサポート体制が、その構築企業の文化や風土と密接に結びついていることについて理解を深めることができ、有意義であった。

これらのご講演からすれば、最近の情報システムや情報ネットワーク活用の動向は、ますますネットワークコンピューティングの傾向を深め、その展開は一企業に止まらず、社会的な拡がりをもつことは明らかである。いずれのご講演も、今後の経営システムの在り方やOR/MSの活用を考察する上で、大変有意義であった。

活動報告

研究発表会 1997年秋季研究発表会での特設セッション「社会情報システムとOR/MS」を、同実行委員会の協力を得て企画し、情報システムの社会的展開についての講演3件を行った。

OR誌 1997年7月号の特集「組織知能と情報ネットワーク企業」を、OR誌編集委員会の協力を得て特集し、部会員を中心とした研究成果を報告した。

oo

学会員の皆様のご参加を歓迎いたします。ご関心をお持ちいただけます方々には、ご案内をさしあげますので、主査または幹事までご連絡下さいますようお願いいたします。

e-mail：太田敏澄 ohta@is.uec.ac.jp, 田中宏和 tanaka@ic.kanagawa-it.ac.jp